

## 《I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標》の記述及び資料等について

### 【建学の精神、教育理念について】

(1) 建学の精神・教育理念を記述し、その意味するところ及び建学の精神・教育理念が生まれた事情や背景をできるだけ簡潔に記述して下さい。

本学の開学に際し、創立者・池田大作先生によってつぎのような「建学の指針」が示された。すなわち、「知性と福德ゆたかな女性」、「自己の信条をもち人間共和をめざす女性」、「社会性と国際性に富む女性」の3つである。(添I - 1 マイカレッジ)

開学当時は、全国に500余校の短期大学が存在していたが、その6割は女子短大であった。女子の進学率が上昇する中で、女子短大への進学希望者は4年制大学を上回っていた。高度成長期を経て豊かさを増してきたわが国において、女性の高等教育の重要性、なかんずく女子短大の果たす役割が大きな注目を集めるようになった。

しかし、すでに数多くの短大が存在する中で、新たに女子短大を創設しようとした意図は何であったか。それは、21世紀社会の繁栄と安寧のためには、女性がその特質をできる限り発揮させていくことが重要であるという、創立者の深い洞察に基づいている。

それを具体的に示したのが3つの建学の指針であり、ここに本学が目指すべき教育のあり方が端的に集約されている。激動する時代、社会にあって、その影響を日常的に受けるのは女性である。ゆえに、女性が幸福の主体者として自立した人生を歩むことが、家庭、社会また人類の幸福の実現のための基本的要因であり、そこに本学の女性教育の主眼がおかれている。

そのために、本学は、2つの学科でそれぞれの専門教育を施すと同時に、教養教育をも重視した。そして、専門と教養の教育をバランスよく組み合わせながら、人間教育の実践の場とすることを方針として掲げた。つまり、一人ひとりの学生が、真の人間としての生き方を学びつつ、豊かな人間性の開花と人格の陶冶を通して、人類の幸福と平和の実現に貢献しゆく創造的な人間に成長していく——ここに本学における教育の目的がある。

(2) 現在は建学の精神・教育理念をどのような形や方法で学生や教職員に知らせているかを記述して下さい。

新入生に対して学科単位で5月に実施されている1泊2日の「フレッシュマンズキャンプ」、学期始および学期末に行われる「学年ミーティング」や「全学ガイダンス」、グループ(1グループ約40人～50人)単位で原則毎月開催される「スチューデントグループミーティング(Student Group Meeting; SGMと略称)」、などを通して、創立精神を学び続けている。また、グループ運営の中心者となるスチューデントリーダー(Student Leader; SLと略称)に対して各学期に「リーダーズ研修」を開催しており、ここでも建学の精神・教育理念に基づき研修が進められる。

「フレッシュマンズキャンプ」、「学年ミーティング」、「全学ガイダンス」および「スチューデントリーダーズ研修」においては、学長・副学長・学科長・学生部長などが講話し、積極的に係わっている。「スチューデントグループミーティング」は、

学生の自主性を重んじてスチューデントリーダーを中心に運営されるが、それを支える担当教員であるスチューデントアドバイザー（Student Advisor ; SA と略称）の支援のもとで実施されている。

建学の精神・教育理念に関する直接的な教員研修はないものの、上述のフレッシュマンズキャンプ実行委員会や、あるいは学科ごとに開催される会議（学科会議）、および教授会では、教員同士で創立の精神を確認しながら議事進行がなされている。

職員においては、毎月1回開催される合同会議、および週2回開催される短大職員会で創立の精神を確認しあっている。

### 【教育目的、教育目標について】

(1) 多くの短期大学が複数の学科・専攻（専攻科を含む。以下「学科等」という。）を設置しています。その場合、それぞれの学科等では建学の精神や教育理念から導き出された、より具体的な教育目的や教育目標を掲げているものと思います。（例えば学科・専攻の設置認可の際に「設置の趣旨」等で示されたもの等）。ここではそれぞれの学科等が設定している具体的な教育目的や教育目標を記述して下さい。

#### I 全学の教育目標(添 I - 1)

(スローガン) 人類の幸福と平和を創造する地球市民の育成

(教育目標)

- ・ グローバルな視野を持ち、人類的課題への関心を深め、その解決に努力する資質を養う。
- ・ 人間主義に基づき、調和と連帯をはかりながら、地域や社会の繁栄に貢献できる能力を培う。
- ・ 幅広い教養と豊かな人間性を涵養し、自他ともの幸福を実現しゆく人格を育む。

#### II 現代ビジネス学科(添 I - 1)

##### ①教育目的

現代ビジネス学科では、多様化する現代ビジネスを人間・環境・社会および情報化・グローバル化などのさまざまな視点から学び、諸問題の探求を通じて理論的・専門的な知識の獲得と現代ビジネスに通用する実践的な能力を身に付け、あらゆるビジネスフィールドで時代をリードする人材の育成を目的とする。

すなわち、現代ビジネスに関する理論を学ぶだけでなく、実務能力の開発にも力を入れ、理論と実務の知識をバランスよく修得するとともに、女性ならではの発想力と想像力を駆使し、あらゆるビジネスシーンで活躍できる豊かな人間性を備えた総合的判断能力を有する人材の育成が、現代ビジネス学科の教育目的である。

##### ②教育目標

- ・ 新鮮な経営的センスと実務能力を磨く
- ・ 情報化・グローバル化社会に対応する能力を培う
- ・ 現代ビジネスにおける問題発見、分析能力を養う

### ③修得できる資質

- ・実践力 ビジネス社会の最先端で求められる実践的な知識、技能の習得
- ・情報力 ITを活用し、情報を収集・分析、発信できる能力の養成
- ・社会性 人間と人間、人間と社会の関わりを学び、広く社会に貢献できる素養を身につける
- ・国際性 グローバル社会への理解を深め、地球市民として国際舞台で活躍できる能力の修得
- ・創造性 人間的視点から、さまざまなビジネスの場で新たな価値を創造する能力の育成

## Ⅲ英語コミュニケーション学科(添 I - 1)

### ①教育目的

社会で役立つ実践的な英語力と豊かな国際感覚を身に付けた、21世紀にふさわしい女性を育成することが、英語コミュニケーション学科の目標である。英語学習の基本である「読む、聞く、書く、話す」という4技能を学ぶとともに、英米の歴史や政治・経済、環境、女性、人権問題といった地球的諸問題を取り上げ、生きた英語に接し、外国の人々と真の意味でのコミュニケーションができる能力を養成している。また、最新のPCを設置したCALL教室、インターネットやDVD、MDなどのマルチメディア教材を活用。アメリカ創価大学への留学プログラムの実施など、多角的に実践的な英語力を養成している。

本学は、生きた語学力と国際性を身につけた人材は、現代社会になくってはならない存在と考えている。したがって本学の英語コミュニケーション学科では、「読む、書く、聞く、話す」の4技能を、オールラウンドに修得するとともに、歴史・文化・国際事情を学びながら、幅広い視野で物事を考える能力と、情報化社会に対応できる能力を育成することを目標としている。講師陣には、外国人に英語を教える資格を持つアメリカ人講師を多数そろえ、学生一人ひとりが、講師と身近にふれあえる少人数制の授業で、きめの細かい指導を実践している。こうして英語の実用的な能力を習得し、国際社会で活躍できる人材を育成すること、さらに異文化を理解し、地球上のさまざまな問題について、世界の人々と自由に意見を交わし、その解決に貢献する人材を育成することが、本学科の目的である。

### ②教育目標

- ・総合的、かつ実践的な英語力の向上を目指す
- ・異文化間における相互理解のための英語コミュニケーション能力の向上を目指す
- ・ITを駆使し、世界の情報を収集・分析し、発信できる英語能力の向上を目指す

### ③修得できる資質

- ・実践力 地球市民として求められる実践的英語コミュニケーション能力
- ・情報力 英語力とITを活用し、地球社会に関する情報を収集・分析発信する能力
- ・社会性 地球社会における異文化の差異を受容し、同じ人間として共に生きる社会

性

- ・国際性 地球市民として求められる幅広い知識と教養
- ・創造性 地球的諸問題を学ぶことによって、その解決への道を考える能力

(2)それぞれの学科等の教育目的や教育目標は、現在ほどのような方法で学生や教職員に周知しているかを記述して下さい。

学生に対しては、新学期および後期初めに実施する履修ガイダンス、さらに毎年5月中旬に開催される1泊2日のフレッシュマンズキャンプなどにおいて、学科の教育目的や目標を周知徹底している。その際に、受験生向けの本学紹介パンフレット『マイカレッジ』（添I - 1）や本学のホームページを参照するよう促している。

教員に対しては、教授会・学科会議の際に種々の検討のなかで周知させている。職員に対しては、教務委員会担当職員（教務課職員）を通して周知させている。非常勤講師に対しては、新年度直前に開催される講師懇談会の席で確認・周知させている。

#### 【定期的な点検等について】

(1)建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検が、定期的に行われている場合はその概要を記述して下さい。また点検を行う組織、手続き等についても記述して下さい。

フレッシュマンズキャンプ、「教養講座」等を通じて建学の精神や教育理念を学生に周知する機会を設けているが、その際、学生委員会等でその内容や意義について、検討を日常的に行っている。

また、学生の側においても、学生会の活動として建学の精神や教育理念について研鑽委員会を設け、グループ（クラス）ごとに学習会を行っている。

自己点検・評価については、4年毎に実施することになっているが、この時には教学委員会が中心になり、点検、見直しを行うようにしている。教学委員会は、教務検討委員会、学生検討委員会、入試検討委員会、図書検討委員会、海外研修検討委員会、人事検討委員会からなるが、各委員会が担当の部門において、建学の精神や教育理念が反映されているかどうか、またその時により更に深化し展開する必要があるかどうか、教育目的や教育目標に新たな視点を盛り込む必要があるかどうか検討するようにしている。

なお、前回の自己点検評価は、2001年度(参X - 1)に行っており、次回は2005年度の予定であったが、2007年度の認証評価の際に実施することとした。

2)建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検及びそれらを学生や教職員に周知する施策等の実施について、理事会又は短期大学教授会がどのように関与しているかを記述して下さい。

教学委員会において検討されたことを、学生については「短大建設懇談会」（教職学により構成される懇談会）や各学科ガイダンス、学年ミーティングなど、教職員については教授会や職員会を通して、周知している。

教学委員会で議論された内容を、教授会に諮り、定期点検結果を共有している。

**【特記事項について】**

(1)この《I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標について努力していることがあれば記述して下さい。また短期大学で独自の使い方や別の語句を使っている場合はその旨記述して下さい。

建学の精神・教育理念から導き出された全学の教育スローガン「人類の幸福と平和を創造する地球市民の育成」を目指して、1年次に開講されている必修科目「教養講座I」（前期・1単位）では、「創価教育の理念と実践」との視点から講義が進められている。また、学長が担当する2年次開講の「21世紀文明講座」（前期・2単位）は、建学の精神・教育理念を深める授業内容となっている。

(2)特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

〈添付資料〉 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標等についての印刷物